



花緑輝

令和2年度
学校報6月号④
大仙市立
太田中学校

快汗! ついに対外試合解禁



待ちに待った対外試合（ただし県内）が解禁となり、週末は各部が練習試合に取り組んでいます。今までできなかった分を取り戻すため「このまま何時間でも」試合をしたい気分ですが、まずは無理をせず、徐々に仕上げたいと思っています。保護者会の皆様、よろしくお願いたします。



「100なら花丸でしょう」

- 先日の放課後、3名の地域の方が職員玄関前の花壇の整備をしてくださっていた。有難いことです。ただ、帰宅する生徒や部活動に向かう生徒で「ありがとうございます。」「お疲れ様です。」と挨拶をしている生徒は見られなかった。残念なことです。自分たちの学校の花壇なのに…。
- 先週の午後、中庭の大量の落ち葉や小枝を片付けていたら、2年生の男子が「手伝いましょうか?」と言ってくれた、自分から！（太中生は頼むとやってくれるが自分からという生徒は少ない、だから私は猛烈に感動している！その言葉で十分！君には部があるからそれを頑張りなさいという思いを）「ありがとう、でも今終わらどござら。」という言葉に込めました。
- 「知識や技術は何とかなりますが、問題は気を利かせて働けるかです。それができれば社会に出ても花丸だと思います。」とは、かつて体験学習で講師を務めてくださったある方の言葉。太田中は学校花壇で有名です。花壇づくりが特色ある活動となっています。ですから太中生は、勤労の意義を理解し、進んで手を動かす生徒であってほしい。



おジャマします。授業拝見！

理科：渋谷 聡 先生



南教育事務所仙北出張所の物部長秀指導主事をお迎えしての校内授業研究会は、渋谷聡先生による3年A組の理科でした。渋谷先生は、「もしもイオンが見えたなら…」と問いかけ、扱い注意の塩酸と水酸化ナトリウムを混ぜたら、どうして（無害の）食塩と水

ができるのかを分子模型レベルで説明することを求めました。聴く&話すというスキルが高まってきている3年A組の皆さんは、積極的に探究活動に取り組み、意見を交流していきました。

物部指導主事からは「子供たちが疑問をしっかりと持って学習に取り組んでいた。全体を通して、とても良い生徒の活動が見えた。どのグループも協力して取り組んでいた。誰とでも関わって協力できる生徒たちで、学級の雰囲気も良かった。先生方の白熱した協議もあり、これからは授業や研究の質を上げていけると感じた。」

（授業での発表の様子）



（授業後の職員研修会）

私と総体～あの頃君は着かった～

ゲスト：長沼 実 先生（大森中出身 男子バレー）

G：総体の思い出を教えてください。

長：大曲仙北地区にはない男子バレーが横手平鹿地区にはあります。そして横手平鹿地区の男子バレーは全県レベルなので、地区の優勝校が全県でも勝つという状況でした。当時は鳳中、十文字中、雄物川中が圧倒的で、郡内では（大森中は）なかなか勝てませんでした。郡外に出ると、そのトップにも簡単に勝てるのに。セッターだったので、自分で得点を取れない歯がゆさも感じていました。今にして思えば、総体の悔いというよりも総体までの悔いが心に残っています。振り返ってみると、当時は環境や他のことのせいにして、自分たちにできるありったけのことをしなかった…、目を背けていた…。そういうことが年を経て分かりました。